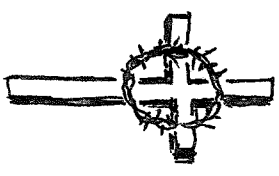


# いずみのひろば

## ゲッセマネのイエスさま

ワタエによる福音書26:36-46



弟子たちと最後の食事をしたあと、イエスさまはゲッセマネというところへ行かれました。父なる神さまにお祈りをするためです。

イエスさまは、「人の罪の身代わりとなって十字架にかかる」、その役割をわかっていました。それでも、逮捕され、十字架にかかる直前に、苦しくて、辛くて、悲しくて、迷われたのです。「できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」

これは、「わたしを十字架につけることを、考えなおしてください」という意味です。同時に、「けれども、わたしの願いではなく、お父さまの思うようにしてください」とも祈られました。イエスさまの迷う心、揺れる心が伝わってくるようですね。

イエスさまは、なんども父なる神さまにお祈りをしました。  
長く、苦しい、闘いのような祈りでした。

そして、とうとう、十字架にかかる覚悟を決められたのです。祈ることで、じぶんの弱さ、迷う心と向き合ったのかもかもしれませんね。わたしたちにも、苦しいとき、辛いとき、悲しいとき、迷うときがあります。

それは、イエスさまの十字架の苦しみにくらべたら、たいしたことではないかも知れないけれど、苦しいとき、辛いとき、悲しいとき、迷うとき、ゲッセマネで祈られたイエスさまのように、父なる神さまにお祈りすることを、おぼえたいと思います。すぐには、答えが見つからないかも知れません。

でも、祈り続けていると、きっと、神さまからの答えが聞こえてきて、心に平安がおとずれます。

(おはなし 小林素子先生)